

第5章



地域別構想



第5章 地域別構想

1. 地域区分の設定

第二次国土利用計画（千曲市計画）の地域区分に即し、次の5つの地域に区分します。

① 東部市街地地域（千曲川右岸の都市計画用途地域及び周辺部）

屋代、栗佐、杭瀬下、雨宮の一部、新田、桜堂、小島、打沢、鋳物師屋、寂蒔、中、小船山、内川、千本柳、上徳間、戸倉の一部の地域

② 西部市街地地域（千曲川左岸の北西部の都市計画用途地域及び周辺部）

稲荷山、野高場、八幡の一部の地域

③ 南部市街地地域（千曲川両岸南部の都市計画用途地域及び周辺部）

戸倉、若宮、磯部、戸倉温泉、上山田温泉、上山田、力石、新山の一部の地域

④ 東部農山村地域（千曲川右岸①東部市街地地域及び③南部市街地地域の外側）

雨宮、土口、生萱、倉科、森、屋代の一部、打沢の一部、鋳物師屋の一部、寂蒔の一部、戸倉の一部、磯部の一部の地域

⑤ 西部農山村地域（千曲川左岸②西部市街地地域及び③南部市街地地域の外側）

桑原、八幡、稲荷山の一部、須坂、羽尾、新山、若宮の一部、上山田の一部、力石の一部の地域

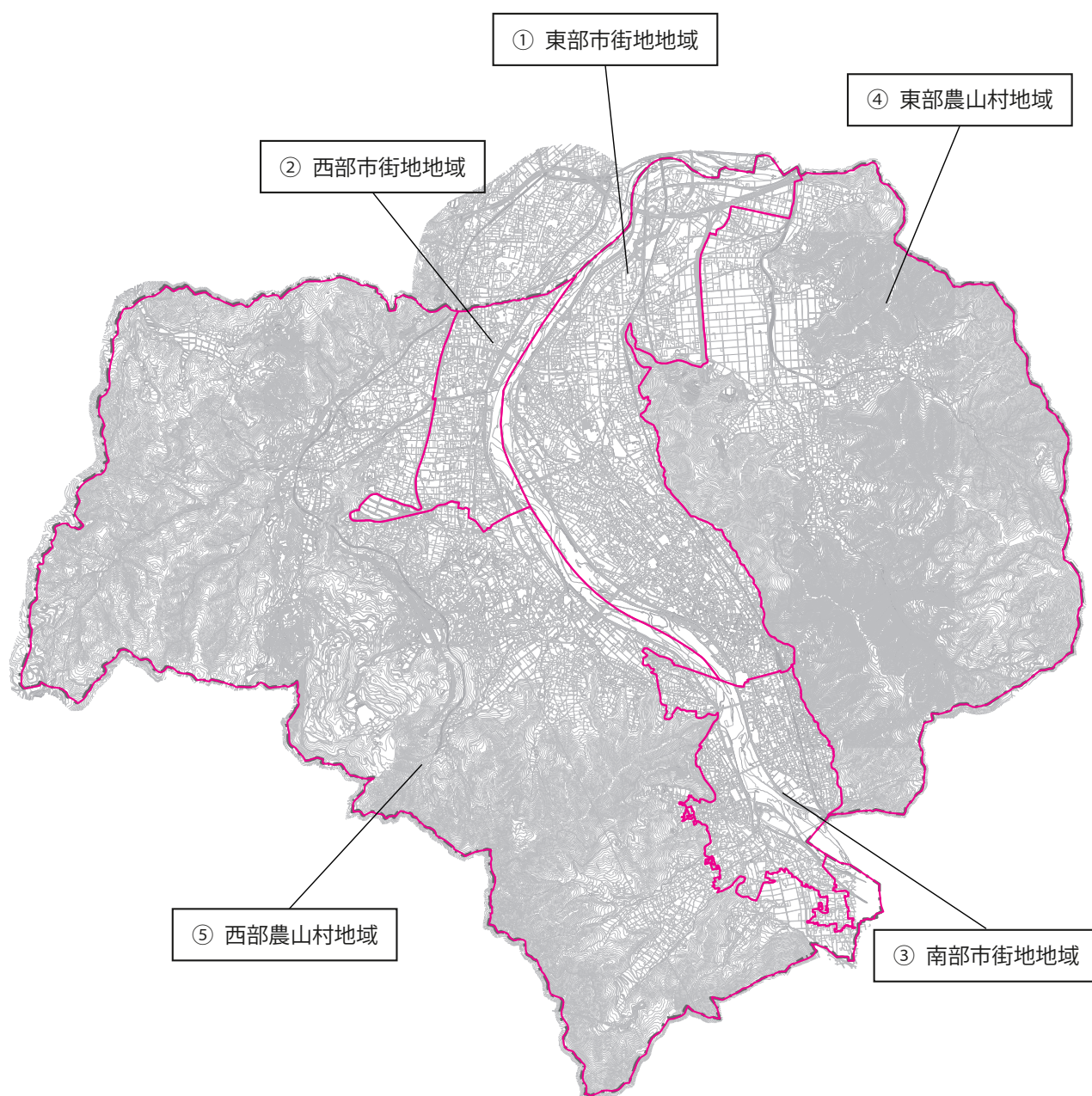


図 _ 地域区分

2. 東部市街地地域

(1) 地域の現状と課題

① 土地利用

本地域は、（都）駅前線や国道18号の沿道商業施設や公共・公益施設が集積する屋代駅周辺の中心市街地、更埴ジャンクション周辺や新田地区の工業地及びこれら周辺の住宅地などから成り立っており、雨宮地区では、農村地域への産業の導入の促進等に関する法律に基づき、雨宮産業団地を創設しています。

屋代駅周辺地区は、都市機能の分散や商業活力の低下に伴い、空洞化が進行していることから、地域の合意形成を踏まえ、人が集まりにぎわう千曲市の中心拠点として「千曲市中心市街地活性化基本計画」に基づき、多様な都市機能が集積する市街地整備を推進することが必要です。

更埴インターチェンジ、更埴ジャンクション周辺の工業地は、用途地域外への工場等の進出が見られるため、計画的な工場等の誘導が必要です。また、屋代地区では平成29年に地権者が中心となり、土地区画整理組合設立準備会を立ち上げ、新たな土地利用を図るための検討が進んでおり、併せてスマートインターチェンジの設置及びアクセス道路となる（都）一重山線の整備が検討されています。

今後は農業的土地利用や生活環境との調和を図りながら、関連諸計画と連携し、都市機能を集積した集約型市街地を目指す必要があります。

② 交通

広域幹線として、長野自動車道、上信越自動車道の結節点である更埴インターチェンジ、更埴ジャンクションが設置されており、首都圏、中京圏、北陸圏等への高いアクセス性を有しています。今後は地域活性化の観点から上信越自動車道西側へのスマートインターチェンジの設置及びアクセス道路となる（都）一重山線の整備に取り組む必要があります。主要幹線として、隣接地域と連絡する道路である南北方向に国道18号が配置されていますが慢性的に渋滞しており、通行機能を補完するため（都）千曲線の早期完成が求められています。東西方向には国道403号、（一）内川姨捨停車場線などが配置されていますが、国道403号は踏切部や住居連担部では狭隘きょうあいであり、一部歩道も整備されていないため、その対応が必要となっています。地域内の道路交通に関して、屋代駅周辺の中心市街地に人が集まり易くするため、（都）駅前線の歩行空間を整備していくことが求められています。千曲駅周辺は、移動しやすい交通環境を形成するため、道路網の充実やバス交通の利便性向上の検討が必要です。市街地や工場地周辺の住宅地から主要な道路へのアクセス性が低く、歩行空間が整備されていない箇所も多いため、その対応が必要です。

公共交通としては、しなの鉄道が国道18号と並行に走っており、屋代高校前駅、屋代駅、千曲駅が設置されています。市が運営する循環バスは屋代駅を中心に運行されており、今後とも利便性の向上の検討が必要です。

③ 公園・緑地

主要な公園として、更埴中央公園、大西緑地公園、科野の里ふれあい公園が配置されており、地域住民の憩いの場、スポーツ・レクリエーション活動の場となっており、今後も利用性の向上と適切な維持管理を図っていくことが必要です。

④ その他の施設

その他の施設として、市営住宅屋代南団地、市営住宅寂蒔団地は老朽化が進んでおり、その対応が必要です。

⑤ 環境・景観

自然環境においては、西側を流れる千曲川と東側に位置する一重山や有明山をはじめとする里山に囲まれており、その維持保全が必要です。景観については、商業店舗が立地する国道18号沿道において、誘客を目的とした派手な色彩の店舗の立地や屋外広告物の掲示が目立ち、煩雑な沿道景観となっていることから、土地利用とあわせ景観への配慮が必要となっています。

⑥ 防災

東林坊川沿いに大雨時に流水が氾濫する箇所がみられるため、その対応が必要です。

(2) 東部市街地地域の地域づくりの目標

- 人が集まりにぎわう都市拠点の形成
- 計画的な産業拠点の形成
- 広域交流拠点の形成

屋代駅周辺は、本市の中心拠点として人々が行き交う広域的な交流の場として位置づけるとともに、商業機能を中心とした従来型の中心市街地から商業、医療、福祉、文化機能など多様な都市機能が集積し、人々が集いにぎわう新たな中心市街地を目指します。また、暮らしやすさの向上を図ることによって居住を誘導して人口密度を維持し、中心拠点としての機能強化を図ります。

国道18号沿道の商業地は、景観に配慮しつつ店舗等の誘導を目指します。

更埴インターチェンジ周辺、新田地区、更埴ジャンクション周辺及び雨宮地区においては、自動車交通の利便性や工業集積を活かした産業用地の確保により、地域経済を活性化させることのできる企業誘致を目指します。

スマートインターチェンジの設置が検討されている上信越自動車道西側地区は立地特性を活かし、市全体の活性化をけん引する広域交流拠点としての形成を目指します。

こうした拠点の周辺においては、計画的な土地利用と整備により、だれもが安心して快適に住み続けることのできるような暮らしやすい住環境の形成を目指します。

(3) 地域づくり方針

① 土地利用

- 屋代駅周辺の（都）駅前線と（都）旧国道線沿道は、本市の中心市街地として位置付け、商業系用途地域の指定により、商業機能のほか事務所、病院、福祉、公共施設、住居、情報発信などの多様な都市機能の集積を図ります。
- 工業の集積が図られている更埴インターチェンジ周辺、新田地区に加え、更埴ジャンクション周辺及び雨宮地区を工業地として位置づけ、工業系用途地域の指定による計画的な工業地の形成を図る一方、点在化した未利用地は地域の実態に即した土地利用への誘導を図ります。
- 都市と農村のバランスを保つため、農村地域に住民が住み続けコミュニティが維持できるよう産業の導入を促進し、就業機会の創出や所得確保を図ります。また、

そのために必要な用途地域指定による適正な土地利用の誘導を図ります。

- 市全体の活性化をけん引するため、上信越自動車道西側周辺の市街地を新たな広域交流拠点と位置づけ、商業系や工業系用途地域の指定による適正な土地利用の誘導を図ります。
- 既に都市的土地利用がされている用途無指定地域においては、現在の土地利用を踏まえた用途地域指定の検討を図ります。
- 市街地内の農地については緑地資源であることから、地域の実態も考慮した上で計画的な土地利用を図ります。

② 交通

- 国道18号の交通円滑化のため、交差点改良を要望します。
- 国道18号の渋滞解消と地域北部の工業地の物流機能向上のため、国道18号バイパスの整備を要望します。
- 国道18号への交通需要の集中を緩和させるため、（都）千曲線の整備推進を図ります。
- 千曲駅周辺の道路網の充実と（一）内川姨捨停車場線の整備を要望します。
- 屋代駅周辺の中心市街地や雨宮、内川等の住宅地における歩行者の交通安全性の確保を図ります。
- 屋代高校前駅、屋代駅、千曲駅は、複数の交通手段が集まる交通結節点としての整備を図ります。
- 上信越自動車道西側地区へのスマートインターチェンジの設置及びアクセス道路となる（都）一重山線の整備を進めます。
- スマートインターチェンジ設置予定地周辺における交通結節機能を図るため、モーダルコネクト拠点（バスターミナル等）の整備を検討します。
- 長野電鉄屋代線跡地については、整備の必要性を考慮した上で、自転車歩行者専用道路等の整備推進を図ります。

③ 公園・緑地

- 人口の増加傾向にある五加地区においては、住民の身近な公園として上徳間公園（仮称）の整備を図ります。
- 地域住民の憩いの場、スポーツ・レクリエーション活動の場である公園・緑地の利用性の向上と適切な維持管理に向け、Park-PFI[※]の研究・検討を進めます。
- 住民の身近な公園・緑地等は、地域住民との協働により維持管理の推進を図ります。

④ 景観

- 国道18号沿道に指定されている屋外広告物規制の適切な運用の推進を図ります。
- 主要な道路沿道においては、良好な景観や住環境を形成するため、沿道地区計画指定の検討を図ります。

⑤ 自然環境

- 千曲川や一重山を本地域の自然資源として位置づけ、その保全と活用を図ります。

⑥ その他都市施設

- 公共施設の老朽化への対応と計画的な改修等を検討します。

⑦ 防災

- 東林坊川における大雨時の浸水被害の防止と親水空間の形成を図ります。

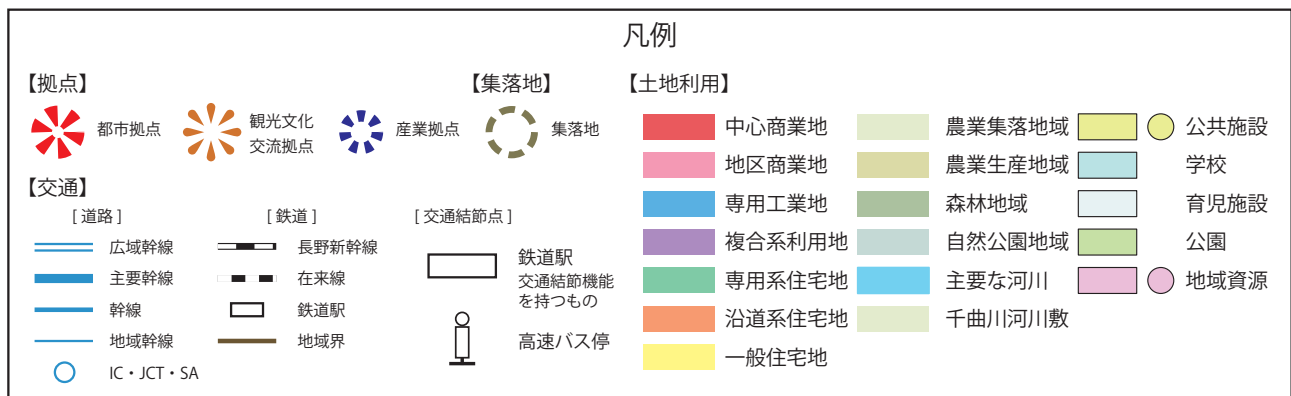
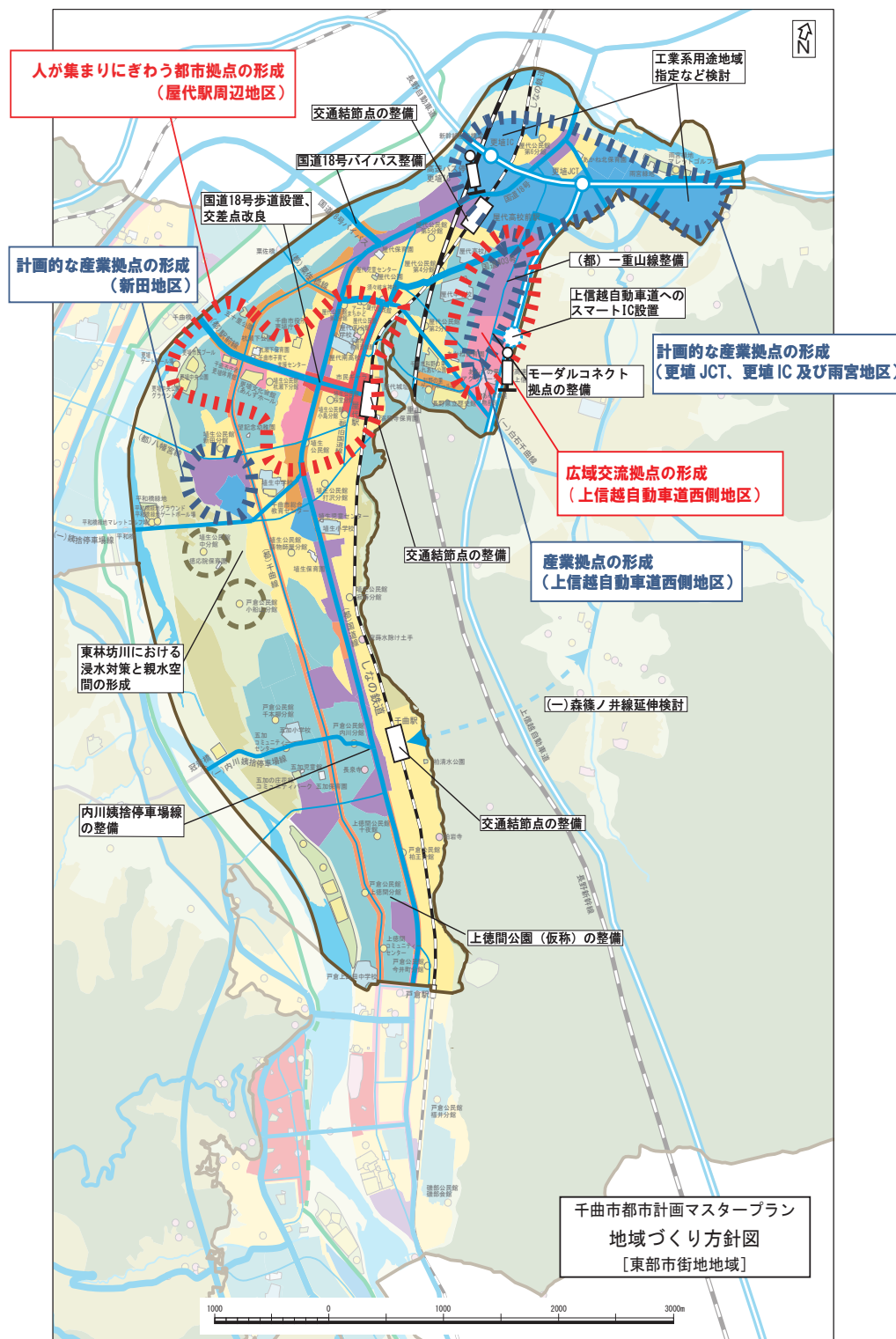


図 東部市街地地域の地域づくり方針図

3. 西部市街地地域

(1) 地域の現状と課題

① 土地利用

本地域は、千曲川左岸の北西部にある市街地で、善光寺街道の商都として栄えた稲荷山地区や、武水別神社がある八幡地区、また、八幡工業団地などにより成り立っています。

稲荷山地区は、善光寺街道沿いに土壁でつくられた建物が点在しているほか、医療福祉センターや養護学校などの福祉施設、蔵し館などの文化施設が立地しています。歴史ある建物のまちなみが地域資源になっていますが、損傷が見られるものもあるため、後世へ引き継ぐためにも維持保全が必要です。

八幡工業団地は区画は完売であるものの、工場等の建設が進まず空きが目立ちますが、広域交通へのアクセス性の改善により、立地誘引を図ることが必要です。事業中の国道18号バイパス沿道においては、事業進捗に伴い沿道開発の進行が予想されるため、土地利用の検討とともに関連計画と連携した良好な沿道環境の誘導が必要です。

② 交通

広域幹線として、長野自動車道が本地域の西側に配置されており、姨捨サービスエリア・姨捨スマートインターチェンジが設置されていますが、姨捨スマートインターチェンジへのアクセス道路が狭隘^{きょうあい}であり、スマートインターチェンジのフル規格化のためにも通行機能の向上が求められます。主要幹線として、国道18号バイパスが本地域の西部に配置されており、稲荷山地区、八幡地区の一部区間が供用されています。国道18号の渋滞解消のため、国道18号バイパスの未整備区間においても早期整備が求められています。地域内の道路交通に関して、(主)長野上田線は通過交通が多く、歩行者の安全性向上が必要です。また、千曲川左岸の堤防には(一)上田千曲長野自転車道が整備されており、住民の健康維持のためにも有効活用が必要です。

公共交通としては、JR篠ノ井線が通っており、長野市塩崎の稲荷山駅が最寄駅となっています。市が運営する循環バスは、複数系統が運行されており、環境負荷低減の観点からも今後とも利便性の向上の検討が必要です。

③ 公園・緑地

主要な公園・緑地として、千曲橋緑地が配置され、地域住民の憩いの場、スポーツ・レクリエーション活動の場となっており、今後も利用性の向上と適切な維持管理を図っていくことが必要です。

④ その他の施設

その他の施設として、市営住宅志川団地は老朽化が進んでおり、その対応が必要です。

⑤ 防災

志川地区には、大雨時に更級川の氾濫による浸水被害が生じており、その対策が必要です。

(2)西部市街地地域の地域づくりの目標

- 歴史・文化を活かした観光文化交流拠点の形成
- 周辺環境に配慮した産業拠点の形成
- 地域資源の連携により回遊性ある観光文化交流拠点の形成

善光寺街道の商都として形成された歴史ある稲荷山地区においては、観光資源となる歴史的な面影とふるさと漫画館、稲荷山宿・蔵し館などの近年整備された魅力ある施設を活かし、生活する人々のニーズを満たす暮らしやすい住環境の形成を目指します。また、周辺には医療福祉センターや養護学校等の福祉施設が立地することから、福祉のまちとしてバリアフリーに配慮したまちづくりの推進を目指します。

国道18号バイパス沿道においては、優良農地の確保を優先し、周辺環境に配慮しながら、地域経済の活力向上に貢献する土地利用を目指します。

地域の人々に親しまれてきた武水別神社や松田家住宅などについては、貴重な歴史的・文化的資源として維持保全するとともに、観光資源としての活用を検討していきます。また、姨捨の棚田、善光寺街道などとの連携により観光回遊性の向上を目指し、交流人口の拡大を図ります。

観光文化交流拠点周辺の住宅地においては、安心して住み続けることのできる住環境の形成を目指します。

(3)地域づくりの方針

① 土地利用

- 稲荷山地区は、福祉施設の集積するまちとして、施設利用者をはじめ地元住民の生活にも配慮した生活環境の誘導を図ります。
- 国道18号バイパスの一部開通による物流機能の向上を活かし、八幡工業団地への立地誘因を図り、工業系用途地域の指定を検討します。一方、優良農地はその確保を図ります。

- 佐野川以北の国道18号バイパス沿道においては、交通利便性の向上による建物立地需要に対し、計画的に適正な土地利用の誘導を図ります。
- 佐野川以南の国道18号バイパス東側については、バイパス整備による交通利便性の向上に伴う住宅や工場立地の需要増加が予想されることから、関連計画と連携し、適正な土地誘導を図ります。
- 歴史ある建物については地域資源として保全し、地域と連携して有効活用策の検討を行います。

② 交通

- 地域住民の利便性向上と千曲川左岸の工業地の物流機能を強化するため、姨捨スマートインターチェンジへのアクセス性向上の検討を図るとともに、姨捨スマートインターチェンジのフル規格化について要望します。
- 国道18号の慢性的な渋滞解消と地域経済の振興を支えるため、国道18号バイパスの整備推進を要望します。
- (主) 長野上田線は、歩行者の安全性確保のため、歩道設置の推進を要望します。また、国道18号バイパスの整備により、(主) 長野上田線における通過交通が抑制できることから、歩行者優先の道路として再整備の検討を要望します。
- 稲荷山地区においては、バリアフリーに配慮した連続的で円滑な歩行空間の整備を図ります。
- 健康増進への意識の高まりを踏まえ、千曲川、稲荷山のまちなみや武水別神社などの地域資源を結び回遊性を高め、連続的な歩行空間の整備の検討を行います。
- (一) 上田千曲長野自転車道は、健康意識の高まりを踏まえ、有効活用の方策を検討し、利用の拡大を図ります。
- 循環バスは、さらなる利便性の向上を図るため、地域の利用状況に応じた運行方法の検討を行います。

③ 公園・緑地

- 商都の面影が残る景観に配慮した公園・緑地空間の形成を図ります。
- スポーツ・レクリエーション活動の場である公園・緑地の、利用性の向上と適切な維持管理に向け、Park-PFIの研究・検討を進めます。
- 住民の身近な公園・緑地等は、地域住民との協働により維持管理の推進を図ります。

④ 景観

- 稲荷山地区については関連計画と連携し、商都の面影が残る土壁のまちなみの保

存、屋外広告物の規制や無電柱化など観光文化交流拠点として特色ある景観の形成を図ります。

- 長野県宝に指定されている武水別神社の高良社本殿の周辺地区は、歴史的な建物群などと調和したまちなみの誘導を図ります。
- 国道18号バイパス沿道については、姨捨地区に広がる棚田や里山に配慮し、屋外広告物の規制誘導を図ります。

⑤ 自然環境

- 歴史ある武水別神社の社叢^{しゃそう}の保全を図るとともに、地域住民との協働による維持管理の検討を行います。
- 武水別神社、松田家住宅、姨捨の棚田や長楽寺等を結ぶ歩行者空間の整備について検討を行います。

⑥ その他施設

- 公共施設の老朽化への対応と計画的な改修を検討します。

⑦ 防災

- 更級川流域の浸水被害を解消するため、排水機場へのポンプ増設を含めた水防対策について要望します。

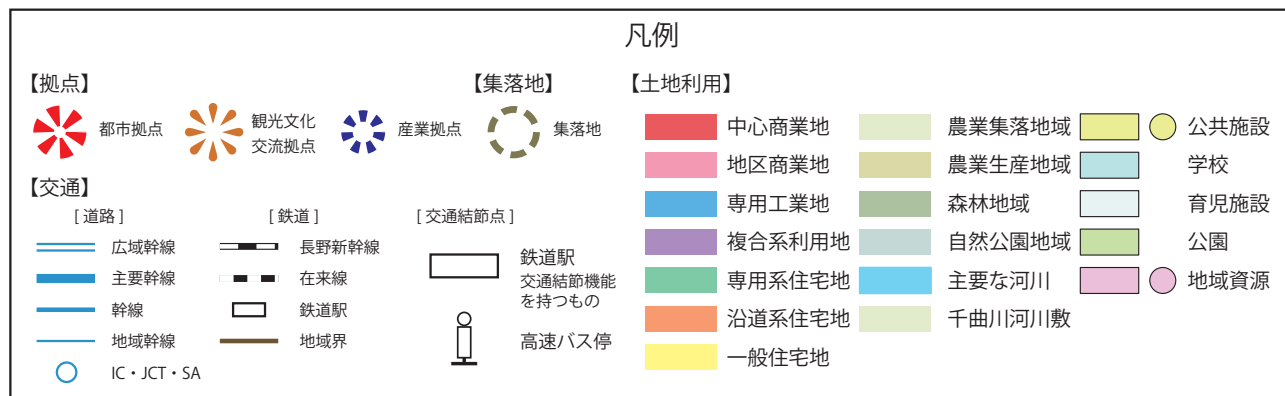
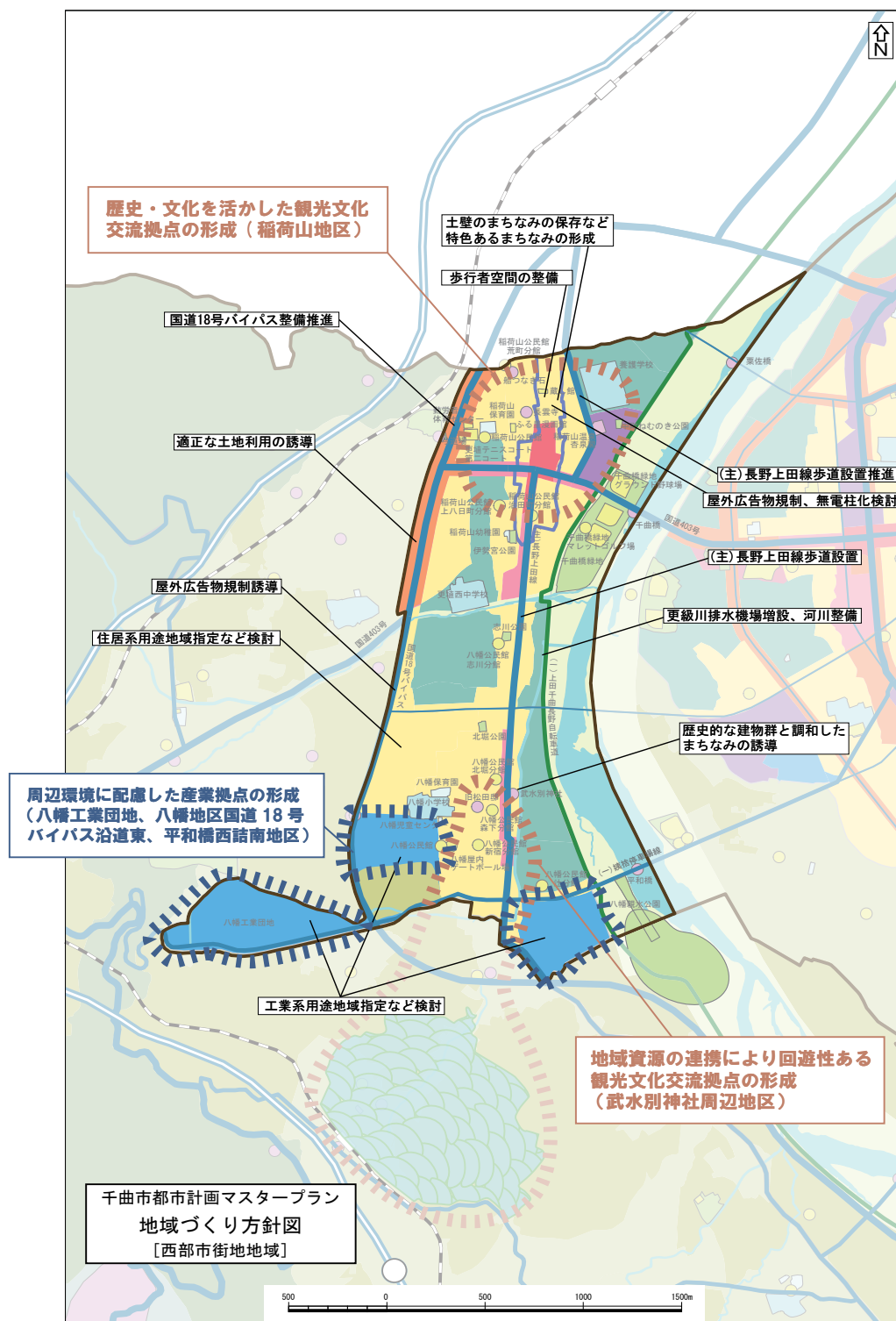


図 西部市街地地域の地域づくり方針図

4. 南部市街地地域

(1) 地域の現状と課題

① 土地利用

本地域は、千曲川を挟み開湯120年を超える戸倉上山田温泉と新戸倉温泉からなる温泉街、戸倉駅周辺の市街地、国道18号や（都）千曲線沿道の市街地、城腰、新山及び力石の集落などにより成り立っています。

戸倉上山田温泉は本市の観光産業の柱ですが、旅館等の廃業や空き店舗の増加とともに観光需要の変化に伴う利用者数の減少が進んでおり、地域活性化のためにも温泉街の魅力向上が求められています。ホテルの廃屋や空き店舗は、防犯や温泉街のまちなみ景観の観点から改善が必要です。国道18号沿道の市街地については、商業店舗の老朽化や沿道景観の悪化が懸念されており、今後の土地利用の検討が必要です。上山田地区では、荒廃が進む市街地内農地の有効活用が必要です。力石地区では、養蚕で栄えた歴史を伝える特徴的な民家や風情ある清水神社及び如法寺周辺の田園風景、花卉栽培産地があり、その保全が必要です。

地域内には、戸倉創造館、戸倉体育館、サッカー場、総合観光会館、上山田文化会館などの公共公益施設が立地するほか、荒砥城、智識寺等の地域資源が数多く点在しており、適切な維持管理を行うとともに有効活用が必要です。

また、地域内には多くのスポーツ施設が立地しており、新戸倉温泉及び戸倉上山田温泉と連携したスポーツ振興や健康増進について検討が必要です。

② 交通

主要な道路として、南北方向には国道18号、（都）千曲線、（主）長野上田線等が配置されていますが、国道18号は慢性的に渋滞しており、その解消が求められています。東西方向には（主）大町麻績インター千曲線、（一）聖高原千曲線等が配置されており、本市と市外とを結んでいます。地域内の道路交通に関して、戸倉上山田温泉を通る（都）中央通り線や堤防道路は、歩道がないうえに通過交通が多く、観光客や地域住民の安全性の確保が必要です。千曲川左岸の堤防には、（一）上田千曲長野自転車道が配置されていますが、温泉街を通過する区間は不連続であり、連続的な通行空間の確保が必要です。

公共交通としては、しなの鉄道が国道18号と並行に通っており、戸倉駅が配置されています。また、市が運営する循環バスが、戸倉駅を中心に充実した路線で運行されており、今後もさらなる利便性の向上の検討が必要です。

③ 公園・緑地

主要な公園としては、千曲川河川敷に公園が整備されており、地域住民や観光客の

利便性の向上と適切な維持管理を図っていくことが必要です。

④ 環境・景観

自然環境については千曲川、冠着山、五里ヶ峯等の山林や山すその里山などの豊かな自然環境に囲まれており、その維持保全が必要です。

⑤ 防災

大雨時に温泉街をはじめ千曲川左岸の住宅地で浸水被害が生じており、その対策が求められています。また、温泉街にはホテル旅館などの建物以外に木造で小規模な飲食店等が多く立地しており、災害時の延焼の恐れが懸念されています。

(2) 南部市街地地域の地域づくりの目標

- 情緒あふれる温泉街を活かした観光文化交流拠点の形成
- 戸倉駅を中心とした都市拠点の形成

開湯 120 年を超える戸倉上山田温泉は、本市の観光産業の中心であることから、利用客の嗜好の変化に応じた千曲川のほとりに開けた情緒あふれる温泉街としてのまちづくりを進め、にぎわいと活気の回復を目指します。

温泉街の最寄り駅である戸倉駅は、交通結節点としての利便性の向上を図るとともに、戸倉駅周辺地区と温泉街との連携により、快適な住環境の形成を目指します。

温泉街の周囲に立地する住宅地は、緑に恵まれた現在の良好な住環境を保全し、今後も住み続けることのできる住環境の形成を目指します。また、市街地周辺については、地域の自然、歴史・文化等を資源として活用しながら、良好な自然環境の維持保全を目指すことで交流人口の拡大を図ります。

今後は温泉・スポーツによる地域活性化と農業的土地利用や生活環境との調和を図りながら、関連計画と連携し、地域に必要な都市機能が集積した拠点を目指します。

(3) 地域づくりの方針

① 土地利用

- 戸倉上山田温泉の活性化を目指し、ホテル旅館以外に観光物産、地元の食材を活かした飲食店、千曲川、荒砥沢の自然や佐良志奈神社、薬師堂などの既存の地域

資源の活用など、利用者が本市の歴史文化に触れられる温泉街の形成を図るとともに、空き店舗・空き旅館等の活用を図ります。

- 新戸倉温泉は、泉質の異なる外湯巡りを楽しむ観光客や日常的に利用している近隣の住民がゆったりとくつろげる温泉街を目指します。
- 戸倉駅周辺および国道18号沿道を軸とした中心市街地は、様々な都市施設の連携により、良好な居住環境の形成を図ります。
- 黒彦団地などの既に整備されている住宅地は、今後の建替え時期を迎えるにあたって現状の住環境が維持されるように、住宅系用途地域の指定による適正な土地利用の誘導を図ります。
- 力石、城腰、新山の集落地は、農村景観の保全を図ります。
- 千曲川右岸はスポーツエリアとして施設間の連携による整備を進めます。

② 交通

- 戸倉駅周辺の市街地や温泉街の通過交通を排除するため、国道18号バイパスの早期整備を要望します。
- 千曲川右岸の道路網の充実により、地域交通の需要の分散と国道18号の渋滞緩和を図ります。
- 戸倉駅周辺から温泉街につながる道路は、温泉街への入口として歩行者優先の道路整備の検討を図ります。
- 温泉街の主要な道路は歩行者優先とし、安全・安心で楽しく歩ける連続的な歩行空間の整備について検討を図ります。
- 温泉街の北部を通っている（主）大町麻績インター千曲線は、交通容量確保のため、道路整備を要望します。
- 三本木地区は、歩行者の安全性を確保するため、^{きょうあい}狭隘道路の解消を図ります。
- 自転車道の活用のため、（一）上田千曲長野自転車道の整備を要望します。
- 戸倉駅は、交通結節点として公共交通の利便性向上や交通手段連携の検討を図ります。
- （都）若宮線の整備促進を図ります。

③ 公園・緑地

- 地域住民や戸倉上山田温泉観光客の憩いの場として、戸倉千曲川緑地公園、千曲川万葉公園の環境保全を図ります。
- 本地域には、地域住民の憩いの場、スポーツ・レクリエーション活動の場である

公園・緑地があり、それらの利用性の向上と適切な維持管理に向け、Park-PFIの研究・検討を進めます。

- 住民の身近な公園・緑地等は地域住民との協働により維持管理の推進を図ります。

④ 景観

- 国道18号や（都）千曲線の沿道における良好な沿道景観の形成を図ります。
- 磯部地区に残る歴史的なまちなみの保存を図ります。
- 戸倉上山田温泉は、千曲川や周辺の里山が眺望でき、歩いて楽しいまちなみの形成を図ります。
- 力石地区の歴史と自然豊かな風景を後世に残すため、まちなみの保存と修景の検討を図ります。

⑤ 自然環境

- 豊かな自然環境の保全を図るとともに、千曲川や冠着山などの里山の散策、地域資源との連携なども含め、自然環境の活用を図ります。
- 上山田地区における荒廃した市街地内農地を市民農園等へ活用を図ります。

⑥ その他都市施設

- 空き店舗の活用や既存の都市施設の連携により、中心市街地の活性化による交流人口の拡大と住環境の向上を図ります。
- 集落地や住宅地の生活環境の向上を図るため、公共下水道の整備推進を図ります。

⑦ 防災

- 温泉街における防火・準防火地域の指定を検討します。
- 千曲川左岸における大雨時の災害防止のため、関係機関と連携し、河川整備や砂防対策等の検討を図ります。
- 安全・安心な暮らしに向け、砂防施設等の整備とあわせ、危険箇所の周知の徹底や避難体制の充実などソフト面での対策を強化します。

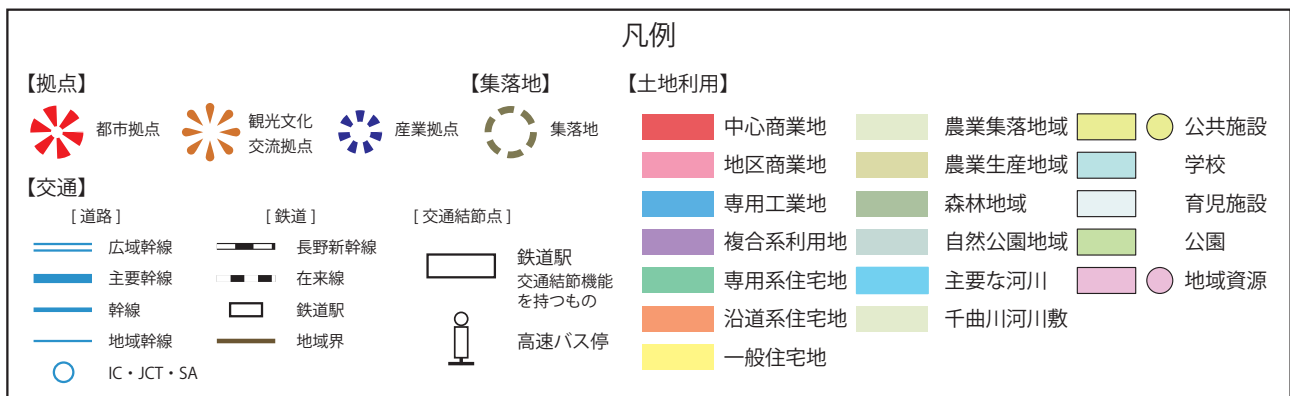
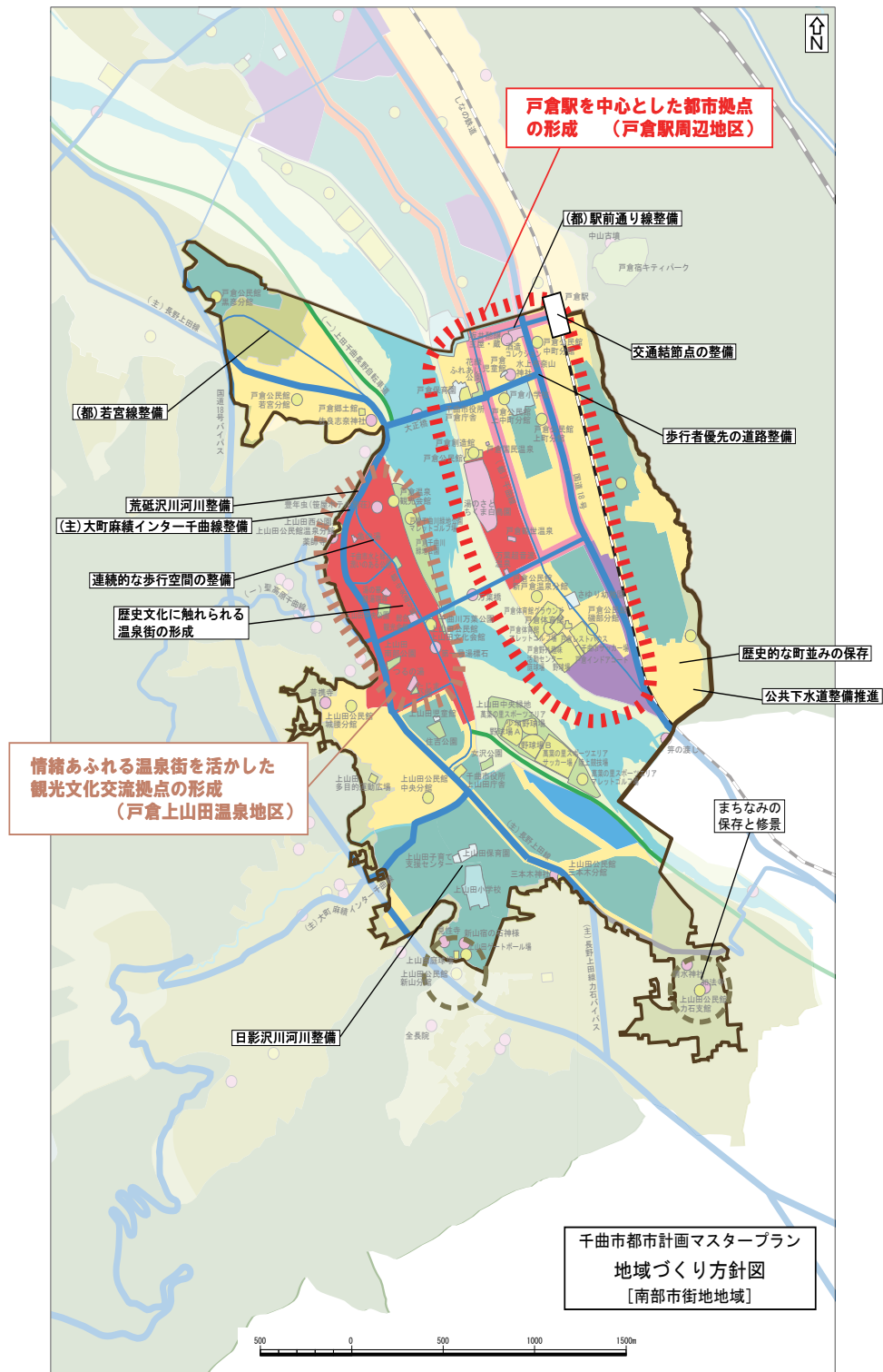


図 南部市街地地域の地域づくり方針図

5. 東部農山村地域

(1) 地域の現状と課題

① 土地利用

本地域は、県内外から多くの観光客が訪れる「日本一のおんずの里」として親しまれている森、倉科地区のほか、雨宮、土口、生萱地区の集落地とその西側に広がる通称屋代田んぼとそれらを取りまく背後の里山などにより成り立ち、本市有数の農業地帯となっています。

森・倉科地区は、おんずの里としてだけでなく、伝統ある寺社も点在しており、魅力ある集落景観を形成しています。一方、地域住民の高齢化と農業の後継者不足が危惧されていることから、地域活力の持続のためにも営農環境の向上を図る必要があります。

雨宮地区においては、北国街道の東脇往還の雨宮の渡しあめのみやにいますひよしや雨宮坐日吉神社などの地域資源が残っています。

本地域には主要な施設として、おんずの里観光会館、おんずの里スケッチパークなどの施設が立地しています。

② 交通

主要な道路網として、国道403号、(一)森篠ノ井線、(一)白石千曲線等が配置されていますが、地形的に行き止まりとなっていることから、通過交通を呼び込まない反面、地域外とのアクセス性が悪く、今後の検討が必要です。地域内の道路交通に関しては、歩道がない道路や狭隘な区間きょうあいが多く、災害時の避難路や緊急自動車の通行可能な進入路の確保が必要です。

公共交通としては、市が運営する循環バスとして、本地域と屋代駅を結ぶ路線が運行されているほか、長野電鉄屋代線廃止に伴う代替路線バスの運行やデマンド型乗合タクシーが運行されていますが、今後とも地域の足として利便性の向上の検討が必要です。

③ 公園・緑地

主要な公園として、戸倉宿キティパークはサクラやセツブンソウ群生地として地域住民に親しまれており、維持保全が必要です。

④ 環境・景観

本地域は、鏡台山、五里ヶ峯などの山々に囲まれ、樽滝、三滝、女陰の滝などの自然資源が豊富であるほか、信濃三十三番札所の妙音寺、観龍寺などの歴史文化資源にも恵まれており、維持保全が必要です。

農業については、農業従事者の高齢化と後継者不足を背景に耕作放棄地が増加しつ

つあり、持続可能な営農や美しい農村景観維持のためにも営農環境の改善が求められています。

また、唐崎山、窪山、有明山などの里山は、管理がなされていないものもあり荒廃が見られることから、その保全と維持管理のあり方についての検討が必要です。

⑤ 防災

土口地区は、千曲川の増水に伴う沢山川の氾濫による水害が頻繁に生じてきた集落地であり、今後も大雨による浸水被害の危険性があることから、その対策が求められています。また、倉科地区では山林の荒廃による水源かん養機能の低下のため、土石流の危険性が高く、その対策が求められています。

(2) 東部農山村地域の地域づくりの目標

- あんずの里における農業共生型の観光文化交流拠点の形成
- 集落地とそれを取り巻く自然環境の保全

森・倉科地区においては、「日本一のあんずの里」といわれる本市の農業生産の中心地としてだけでなく、良好な景観の保全、質の高い住環境の形成や観光振興への活用向上を目指します。

雨宮の渡しや土口の石垣等それぞれに歴史をもつ集落地と、それを取り巻く自然環境については、後世に継承すべき貴重な地域資源として、その保全を目指します。

また、屋代田んぼについては、稲作の中心地として、優良な農地の確保のため、農業生産基盤の整備とともに良好な農業景観の維持を目指し、持続可能な農地のあり方について検討を進めます。

(3) 地域づくりの方針

① 土地利用

- 農地と集落地が共生するのどかな農村景観を保全するため、集落地区計画等の土地利用の規制誘導策の指定検討を図ります。
- 地域と連携し、持続可能な農地のあり方や取組について検討を進めます。

② 交通

- 戸倉上山田温泉をはじめとする市内の観光資源との連携を図るため、(一) 森篠ノ

井線の戸倉方面への延伸を検討します。

- 集落地の交通安全性を確保するため、雨宮、森・倉科などの集落地における連続的な歩行空間の整備を図ります。
- あんずの花見時期の集落地への観光客の自家用車の乗り入れを防ぐため、観光駐車場の整備と花見時期以外の時期における活用方策を検討します。
- 集落地と中心市街地などへの円滑な移動性を確保するため、循環バスやデマンド型乗合タクシーの利便性向上など公共交通の充実を図ります。

③ 公園・緑地

- 戸倉宿キティパークは、桜並木の景観を保全し、市民の憩いの場として活用を図ります。
- 地域住民の憩いの場、スポーツ・レクリエーション活動の場である公園・緑地の利用性の向上と適切な維持管理に向け、Park-PFIの研究・検討を進めます。
- 住民の身近な公園・緑地等は、地域住民との協働により維持管理の推進を図ります。

④ 景観

- 森・倉科地区の良好な集落景観の維持と観光資源としての価値向上を図ります。そのために、担い手確保等、持続可能な営農のあり方を検討するとともに、関連計画との連携により、美しい集落景観の維持について仕組みを検討します。

⑤ 自然環境

- 通称屋代田んぼや森・倉科地区のあんずの里は、本市の中心的な農業地であるとともに、良好な田園風景を創出する地域資源であるため保全を図り、維持できる仕組みを検討します。
- 観光客の回遊性と地元住民の健康づくりのため、あんず、セツブンソウ群生地や里山の景観等の地域資源間の連携を行い、交流人口の拡大を図ります。
- 地域の自然景観を形成している里山を将来に引き継ぐため、里山を維持できる仕組みを検討し、里山の保全や多面的な活用を図ります。

⑥ 防災

- 土口地区は、災害に強い安全な住環境の形成を図ります。
- 倉科地区の土砂災害警戒区域への砂防堰堤の整備を要望します。
- 防災施設の整備とともに、情報伝達の強化や危険箇所の周知などソフト対策による防災・減災を進めます。

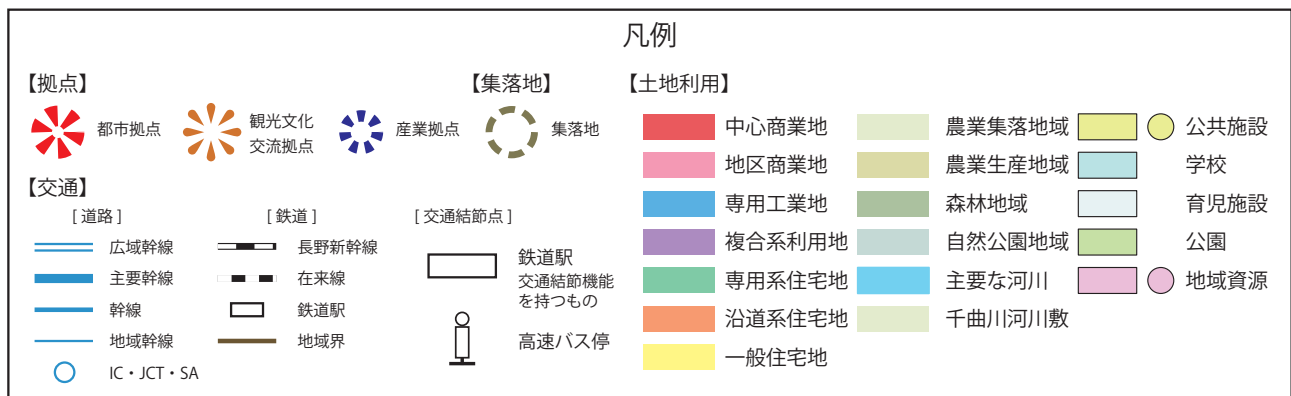
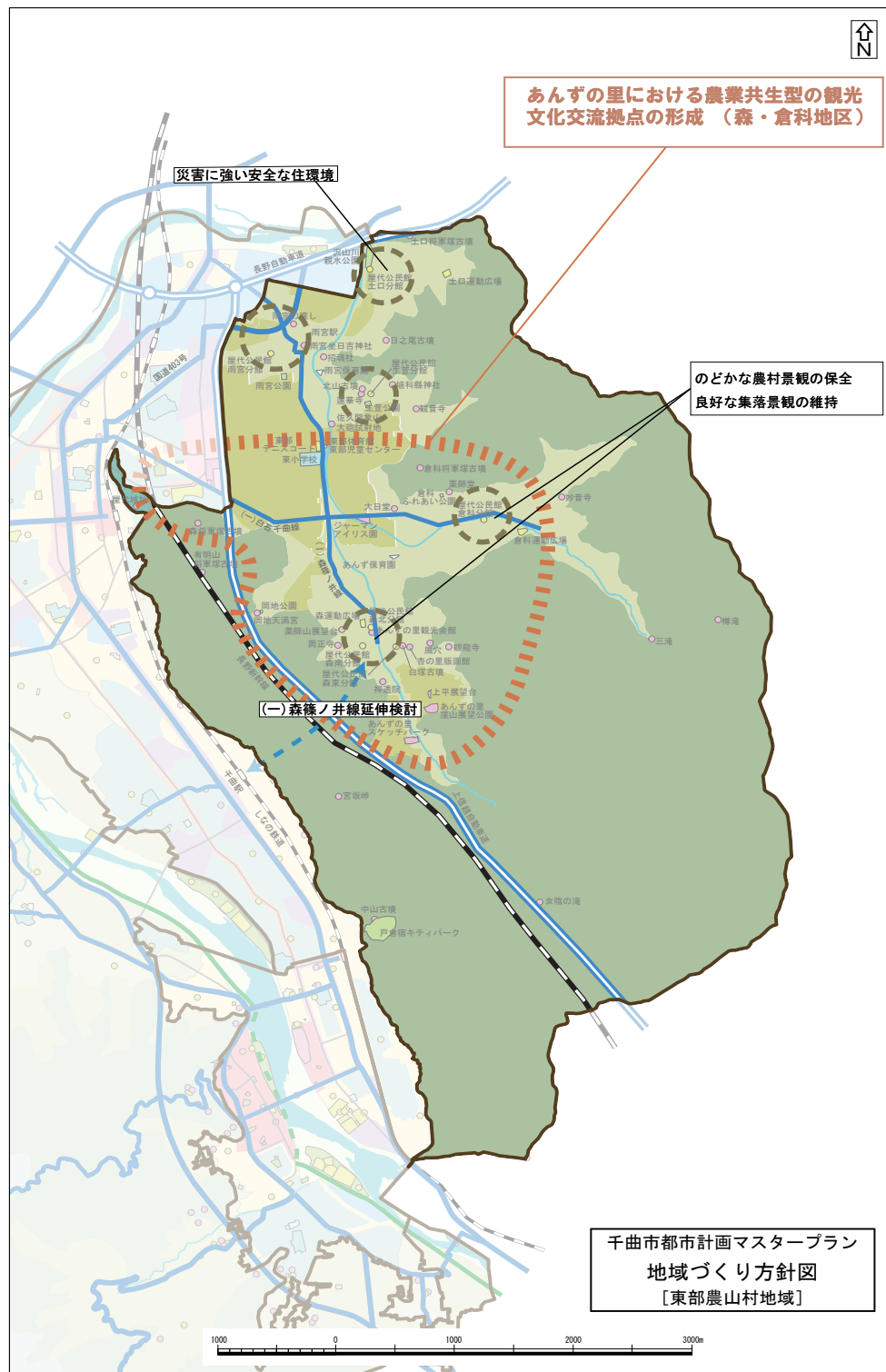


図 東部農山村地域の地域づくり方針図

6. 西部農山村地域

(1) 地域の現状と課題

① 土地利用

本地域は、善光寺街道の桑原宿であった桑原地区、国の名勝「姨捨（田毎の月）」に指定されている姨捨地区のほか、大田原、羽尾、漆原地区などの農地と共生する集落地、その周囲に広がる里山などにより成り立っています。

本地域の棚田は、全国から観光客が訪れる景勝地であり、その維持保全と観光等へ更なる活用を図ることが求められます。また、信濃三十三番札所の長楽寺や開眼寺のほか、大雲寺などの歴史文化資源が点在しており、地域資源としての活用が必要です。集落地の周辺においては、住民の高齢化と後継者不足を背景に耕作放棄地が増加しつつあり、持続可能な営農に向けて営農環境の保全に向けた取組が必要です。

② 交通

広域幹線として、長野自動車道の姨捨サービスエリア、姨捨スマートインターチェンジが設置されています。利便性向上のため、スマートインターチェンジのフル規格化の検討が必要となりますが、姨捨スマートインターチェンジのアクセス道路は狭隘^{きょうあい}であり、利便性向上のため通行機能の改善が求められます。主要幹線として、南北方向には（主）長野上田線が配置され、国道18号バイパスは一部が供用されています。東西方向には国道403号、（主）大町麻績インター千曲線等が配置されており、本市と市外とを結んでいます。地域内の道路交通に関しては、歩道がない道路や狭隘^{きょうあい}な区間が多く、災害時の避難路や緊急自動車の通行可能な進入路の確保が必要です。

公共交通としてはJR篠ノ井線が通っており、姨捨駅が設置されています。市が運営する循環バスは、屋代駅と戸倉駅から複数の系統が運行されており、今後とも利便性の向上が必要です。

③ 環境・景観

全国的に有名な姨捨の棚田、千曲高原、冠着山（姨捨山）等の自然資源に恵まれており、維持保全を図りながら観光面への活用の検討が必要です。雄沢川にはホタルが生息し、地域住民に親しまれていることから維持保全が必要です。

④ 防災

大雨時に浸水被害や土砂災害が生じる箇所があることから、その対策が求められています。また、羽尾地区では山林の荒廃による水源かん養機能の低下のため、土石流の危険性が高く、その対策が求められています。

(2)西部農山村地域の地域づくりの目標

- 棚田を活かした観光文化交流拠点の形成
- 集落地の暮らしを維持する生活基盤の形成と自然環境の保全
- 里山や田園など美しい景観の保全

姨捨地区は、観光文化交流拠点として位置づけ、多様な担い手の確保やオーナー制度などによる持続的な営農環境の形成により、棚田景観の保全を目指します。

地域に点在する集落地については、生活環境の向上につながる基盤施設の整備により、良好な農業生産活動と生活環境の一体的な形成を図り、安心して住み続けることのできる地域形成を目指します。また、集落地を取り巻く自然環境については、後世に継承すべき地域の貴重な財産として、適切な保全や保存を目指すとともに、適切な管理のあり方について検討します。

(3)地域づくりの方針

① 土地利用

- 計画的な土地利用により集落地と農地の調和を図り、地域の魅力の維持向上と住みやすい住環境の形成を図ります。
- 姨捨地区は、名勝「姨捨（田毎の月）」指定地と調和した集落地環境の形成を図ります。
- 桑原、八幡、羽尾、芝原、漆原地区などの集落地は、安心して住み続けることのできる住環境の形成を図ります。

② 交通

- 国道18号の渋滞を解消するとともに、（主）長野上田線の通過交通を排除するため、国道18号バイパスの整備を要望します。
- 安心して住み続けられる集落地環境を形成するため、^{きょうあい}狭隘道路の解消を図ります。
- 姨捨スマートインターチェンジのフル規格化など、利便性の向上を図ります。
- 地域住民の活発な活動を支えるため、循環バスの利便性向上やデマンド交通^{*}導入の検討など、公共交通の充実を図ります。
- 姨捨駅を交通結節点として位置づけ、乗継利便性の向上を図ります。

③ 公園・緑地

- 千曲川の自然を体験できる親水空間として、水辺の楽校親水公園の環境保全を図ります。
- 地域住民の憩いの場、スポーツ・レクリエーション活動の場である公園・緑地の、利便性の向上と適切な維持管理に向け、Park-PFIの研究・検討を進めます。
- 住民の身近な公園・緑地等は地域住民との協働により維持管理の推進を図ります。

④ 景観

- 桑原地区は、観光資源としての活用を図るため、歴史あるまちなみの保全を図ります。
- 姨捨地区は、棚田や集落周辺の地域資源によって形成される風景の保全を図ります。
- 良好な景観の保全・育成のため、関連計画と連携し管理のあり方や仕組みについて検討します。

⑤ 自然環境

- 優良な農地の保全と耕作放棄地等の有効活用、持続可能な農地のあり方などの検討を図ります。
- 名勝「姨捨（田毎の月）」指定地の整備推進と保全を図ります。
- 棚田や里山景観と他地域との連携によるさらなる魅力の創出の検討など多面的な有効活用を図ります。
- 集落地をとりまく高雄山、冠着山などの里山の保全を図ります。
- 観光客の自然体験だけでなく地域の住民の健康づくりのため、散策路整備の検討など多面的な有効活用を図ります。
- 雄沢川のホタルの生息環境の保全を図ります。

⑥ 防災

- 大雨時の災害防止のため、河川整備や砂防対策等の検討を図ります。
- 安全・安心な暮らしに向け、砂防施設等の整備とあわせ、危険箇所の周知の徹底や避難体制の充実などソフト面での対策を強化します。

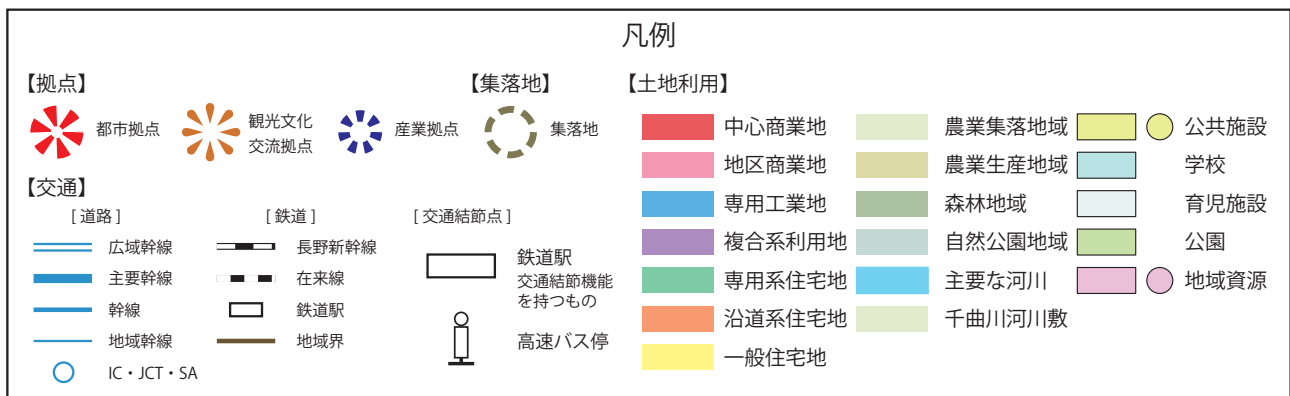


図 西部農山村地域の地域づくり方針図